

日本サッカーの象徴 八咫鳥（やたがらす）

日本サッカー協会のマークは三本足の鳥です。(財)日本サッカー協会ホームページによると、中国の古典『淮南子』をもとに、三足鳥は日の神で太陽をシンボル化したもので、日本では神武天皇東征を道案内した八咫鳥として親しみがありません、としています。

熊野から神武天皇を道案内したという伝承は、重要な意味を持っています。熊野は「南山」とされ、都の南に位置する太陽信仰の聖地です。日の本とされた日本の皇室の信仰にもつながる、建国神話のめでたい聖なる鳥として、日本のシンボルにふさわしいからです。熊野は、あの世の入口とも考えられていましたから、魂を運ぶ鳥・不老不死の鳥ともされる八咫鳥の“生息環境”にふさわしいのです。熊野の神の使いとして崇められたわけが理解できます。

八咫鳥は、三足の利はもちろん、先導する鳥、賢い鳥という霊性・習性からしても、日本サッカーにもっともふさわしい霊鳥といえます。

このマークの発創には、日本サッカーの始祖といわれた那智勝浦町浜ノ宮出身の中村覚之助のかかわりが指摘されています



(財)日本サッカー協会のシンボルマーク